

平成24年度

保健所年報

(旧伊賀保健福祉事務所)

(平成25年版)



伊賀庁舎のマスコットキャラクター 「もーにんちゃん」(左)と「おーちゃん」(右)

三重県伊賀保健所

〒518-8533 伊賀市四十九町 2802 番地 三重県伊賀庁舎内

(保健衛生室)

総務企画課	TEL 0595-24-8070
健康増進課	TEL 0595-24-8045
地域保健課	TEL 0595-24-8076
衛生指導課	TEL 0595-24-8080

FAX 0595-24-8085

〔ホームページ URL〕 <http://www.pref.mie.lg.jp/GHOKEN/HP/>

〔Eメールアドレス〕 ghoken@pref.mie.jp

目次

1 管内概況	
(1)伊賀保健所の概要	…… 1
(2)相談等日程	…… 2
(3)管内の状況	…… 3
(4)人口動態統計	…… 7
2 「みえ県民カビジョン」による事業実績	
I「守る」～命と暮らしの安全・安心を実感できるために～	
111 防災・減災対策の推進	
11105(災害医療体制の整備)	
1 災害拠点病院	…… 11
113 食の安全・安心の確保	
11301(食品の安全・安心の確保)	
1 食品衛生	…… 12
114 感染症の予防と体制の整備	
11401(感染症予防普及啓発の推進)	
1 感染症の予防事業	…… 14
11403(感染症対策のための相談・検査の推進)	
2 エイズ対策事業	…… 15
3 結核対策事業	…… 16
121 医師確保と医療体制の整備	
12101(医療分野の人材確保)	
1 管内保健師設置状況	…… 21
2 保健師等研修状況	…… 21
3 看護学生等保健所実習指導	…… 21
12102(救急・へき地等の医療の確保)	
1 地域救急医療対策事業	…… 22
2 救急告示病院	…… 22
12103(医療の質の向上)	
1 医務	…… 23
123 こころと身体の健康対策の推進	
12301(健康づくり活動の推進)	
1 健康づくり総合推進事業	…… 24
2 健康食育推進事業	…… 25
3 栄養施行事務事業	…… 26
12302(こころの健康づくりの推進)	
1 こころの健康づくり事業	…… 28
2 自殺予防対策	…… 28
12303(生活習慣病・難病対策の推進)	
1 原子爆弾被爆者対策事業	…… 31
2 難病対策事業	…… 32
3 難病在宅ケア事業	…… 35

目次

4	臓器移植啓発事業	……	39
5	ハンセン病啓発事業	……	39
6	骨髄バンク	……	39
134	薬物乱用防止等と医薬品の安全確保		
13401	(薬物乱用防止対策の推進)		
1	薬物乱用防止対策	……	40
13402	(医薬品等の安全な製造・供給の確保)		
1	薬事	……	42
2	講習会	……	42
3	献血推進	……	45
13403	(生活衛生営業の衛生水準の確保)		
1	生活衛生	……	46
13404	(人と動物との共生環境づくり)		
1	狂犬病予防	……	47
2	動物愛護	……	47
141	介護基盤整備などの高齢者福祉の充実		
14101	(介護保険事業の円滑な運営とサービスの質の向上)		
1	介護保険制度	……	48
14102	(介護基盤の整備促進)		
1	老人保健福祉施設等の設置状況	……	49
142	障がい者の自立と共生		
14202	(障がい者福祉サービスの充実)		
1	障がい者福祉	……	53
14204	(精神障がい者の保健医療の確保)		
1	精神保健福祉事業	……	57
143	支え合いの福祉社会づくり		
14301	(地域福祉活動と権利擁護の推進)		
1	民生委員・児童委員	……	62
14304	(ユニバーサルデザインのネットワークづくりの推進)		
1	おもいやり駐車場利用証制度	……	64
II「創る」～人と地域の夢や希望を実感できるために～			
232	子育て支援策の推進		
23201	(保育・放課後児童対策等の充実)		
1	保育所	……	65
2	管内の児童福祉施設(保育所を除く)の状況	……	65
23202	(母子保健対策の推進)		
1	母子保健事業	……	66
2	母体保護事業	……	68

* 事業実績は、次ページの「みえ県民カビジョン」の政策・事業体系に沿ってまとめました。

「みえ県民カビジョン」の政策・事業体系

「みえ県民カビジョン」は、長期的な視点から、三重のあるべき姿を展望し、県政運営の基本姿勢や政策展開の方向性を示す、平成24(2012)年度からのおおむね10年先を見据えた県の戦略計画です。社会経済情勢の変化に対応し、県民の皆さんと力を合わせて新しい三重づくりをめざそうとするものです。

基本理念の実現に向けて、〈政策展開の基本方向〉(三つの柱)を定めるとともに、その下に16の〈政策〉、56の〈施策〉を位置づけて、県政を推進していきます。

I「守る」～命と暮らしの安全・安心を実感できるために～

政策	施策	基本事業	ページ
1	危機管理		
	1	防災・減災対策の推進	
		11105(災害医療体制の整備)	11
	3	食の安全・安心の確保	
		11301(食品の安全・安心の確保)	12
	4	感染症の予防と体制の整備	
		11401(感染症予防普及啓発の推進)	14
		11403(感染症対策のための相談・検査の推進)	15
2	命を守る		
	1	医師確保と医療体制の整備	
		12101(医療分野の人材確保)	21
		12102(救急・へき地等の医療の確保)	22
		12103(医療の質の向上)	23
	3	こころと身体の健康対策の推進	
		12301(健康づくり活動の推進)	24
		12302(こころの健康づくりの推進)	28
		12303(生活習慣病・難病対策の推進)	31
3	暮らしを守る		
	4	薬物乱用防止等と医薬品の安全確保	
		13401(薬物乱用防止対策の推進)	40
		13402(医薬品等の安全な製造・供給の確保)	42
		13403(生活衛生営業の衛生水準の確保)	46
		13404(人と動物との共生環境づくり)	47
4	共生の福祉社会		
	1	介護基盤整備などの高齢者福祉の充実	
		14101(介護保険事業の円滑な運営とサービスの質の向上)	48
		14102(介護基盤の整備促進)	49
	2	障がい者の自立と共生	
		14202(障がい者福祉サービスの充実)	53
		14204(精神障がい者の保健医療の確保)	57
	3	支え合いの福祉社会づくり	
		14301(地域福祉活動と権利擁護の推進)	62
		14304(ユニバーサルデザインのネットワークづくりの推進)	64

Ⅱ「創る」～人と地域の夢や希望を実感できるために～

政策	施策	基本事業		
2	子どもの育ちと子育て			
3	子育て支援策の推進			
		23201(保育・放課後児童対策等の充実)	……	65
		23202(母子保健対策の推進)	……	66

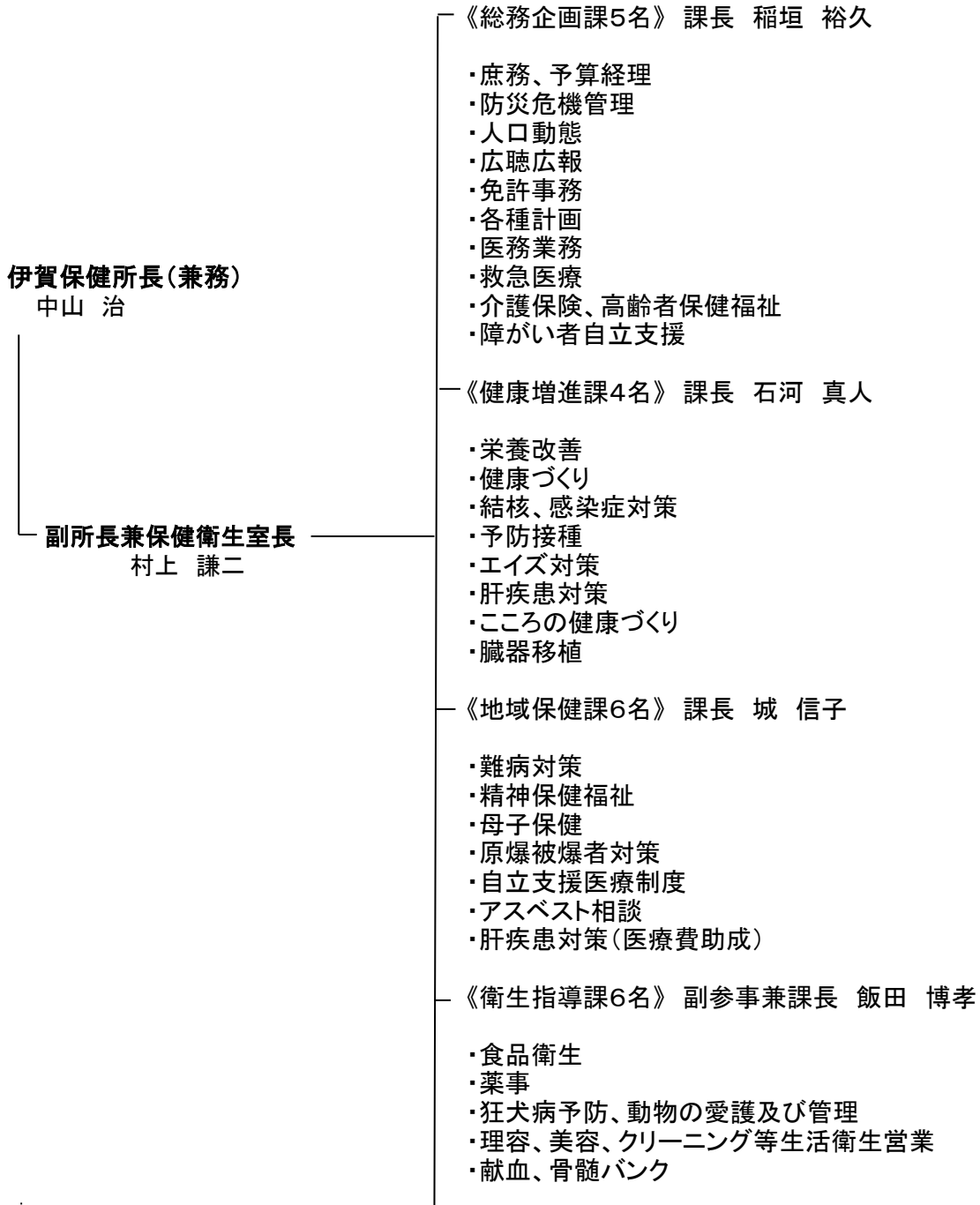
Ⅲ「拓く」～強みを生かした経済の躍動を実感できるために～

* 伊賀保健所に関する事業のみ抜粋しました。

1 管内概況

(1) 伊賀保健所の概要(平成25年度体制)

伊賀保健所組織及び所掌事務



(2) 相談等日程

	午前	午後	場所
月曜日			
火曜日	エイズ・肝炎の相談・検査 (要予約) 9:00～11:00		県 伊賀庁舎
水曜日		精神保健相談(要予約) (第4週) 14:00～16:00	県 伊賀庁舎
木曜日	骨髄バンク(ドナー登録) (要予約) (第2週)9:00～12:00		県 伊賀庁舎
	結核検診 (第2・4週)12:30～13:30		県 伊賀庁舎
金曜日			

(3) 管内の状況

ア 各市の状況

種別 市	平成22年国勢調査		平成24年10月1日現在				世帯数の伸び率	人口の伸び率
	世帯数	総人口	面積(km ²)	世帯数	総人口	人口密度(人/km ²)		
計	64,396	177,491	687.93	64,799	175,023	254.4	100.6%	98.6%
伊賀市	34,915	97,207	558.17	34,534	95,243	170.6	98.9%	98.0%
名張市	29,481	80,284	129.76	30,265	79,780	614.8	102.7%	99.4%

*資料: 三重県戦略企画部統計課 平成24年10月1日推計人口

イ 管内の概況

平成 16 年 11 月 1 日に上野市、伊賀町、島ヶ原村、阿山町、大山田村、青山町の 6 市町村が合併し「伊賀市」が誕生したことにより、管内は名張市との 2 市体制となっています。

(ア) 位置・面積・気候

伊賀地域は、三重県の西北部、関西圏と中部圏のほぼ中央に位置するとともに、北は滋賀県、西は京都府、奈良県に接しており、古くから経済・文化ともに関西圏の影響を強く受けている地域です。

また、当地域は内陸盆地で、中央に上野盆地、南に名張盆地があり、東の鈴鹿、布引山系、西の笠置山系、南の室生火山群、北の信楽高原と標高 500～800m の山々に囲まれ、総面積は 687.93k m²で、県土の約 12%にあたります。

山地が約 62%(421.37k m²)を占めますが、盆地内は標高 130～160m で、柘植川、服部川、木津川、名張川が流れ、伊賀市街、名張市街などを潤し、その全てが木津川に集まり、さらに淀川となって大阪湾に注いでいます。

伊賀地方の気候は、その位置と地形から内陸盆地特有の気候です。気温は年平均 14℃前後で、県内でも比較的低温、寒冷地には当たりませんが、夏と冬や朝と夕の気温差が大きい内陸性気候の特徴を見せています。また、年間降水量は 1,400mm 程度と少なく、地形的な要因から夏期の雷及び春秋の霧の発生が多いところです。

(イ) 人口

伊賀地域の人口は、平成 24 年 10 月 1 日現在 175,023 人であり、県の総人口に占める割合は約 1 割です。

昭和 40 年頃までは、高度成長期における県外流出が続き、各市町村とも減少していましたが、その後徐々に増加し、昭和 55 年以降の管内人口の増加率は県全体の増加率を大幅に上回る状況が続き、特に名張市と旧青山町においては、昭和 55 年以降の人口の増加が顕著です。これは、伊賀南部の近鉄大阪線沿線の住宅開発等に起因するものです。しかしながら、伊賀地域の人口は平成 12 年をピークに僅かずつではありますが減少傾向に転じています。

また、管内の 65 歳以上の老年人口は、平成 24 年 10 月現在 46,420 人で、総人口に占める割合は、26.5%に達し、全県の老年人口の比率 25.1%を上回っています。

(ウ) 交通

道路網については、東西幹線として名阪国道(亀山市～天理市)、国道 25 号(四日市市～大阪市)、国道 163 号(大阪市～津市)、国道 165 号(大阪市～津市)、南北幹線として、国道 368 号(伊賀市～多気町)、国道 422 号(大津市～紀北町)の主要幹線があり、また伊賀の各地区を環状に結ぶ広域農道の伊賀コリドールロードが整備されました。

交通機関は、鉄道として東西に、北部のJR関西線、南部の近鉄大阪線が、南北にこの両者を結ぶ伊賀鉄道が通じています。また北東部にはJR草津線が通っています。

このうち、近鉄大阪線については、関西圏の通勤の動脈として利便性が高くなっています。またJR関西線は、名古屋市と大阪市を最短ルートで結ぶ主要幹線鉄道であるものの単線・非電化であることから、輸送力の増大と利便性の向上が強く望まれています。

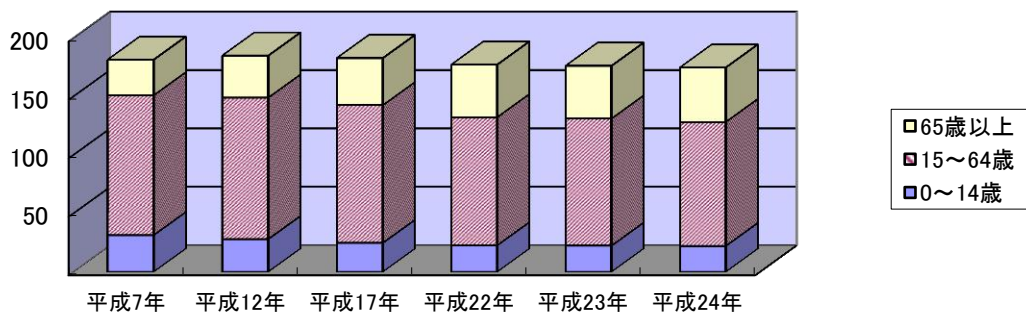


(エ) 管内人口の推移(各年10月1日現在)

	平成7年 1995年	平成12年 2000年	平成17年 2005年	平成22年 2010年	平成23年 2011年	平成24年 2012年
計	181,348	184,818	182,779	177,491	176,487	175,023
伊賀市 (旧上野市)	60,986	61,493	100,623	97,207	96,316	95,243
名張市	79,913	83,291	82,156	80,284	80,171	79,780
伊賀市 (旧伊賀町)	11,154	11,019				
伊賀市 (旧島ヶ原村)	2,934	2,752				
伊賀市 (旧阿山町)	8,500	8,427				
伊賀市 (旧大山田村)	6,186	5,987				
伊賀市 (旧青山町)	11,675	11,849				

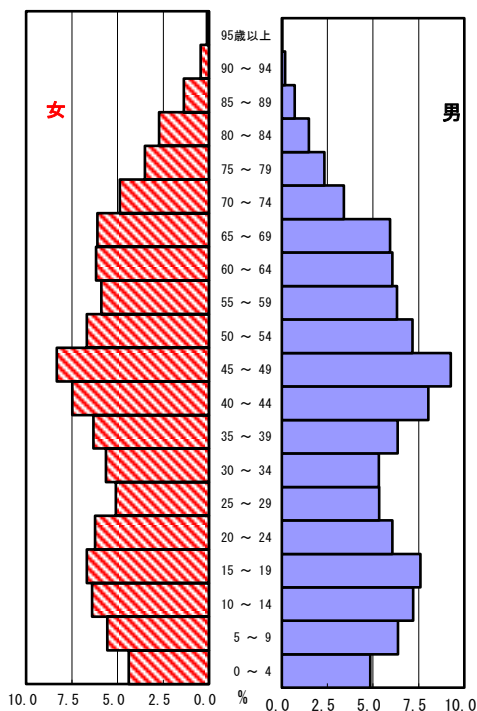
*資料:平成7年～平成22年は国勢調査、平成23,24年は三重県戦略企画部統計課推計人口

3区分別割合の推移

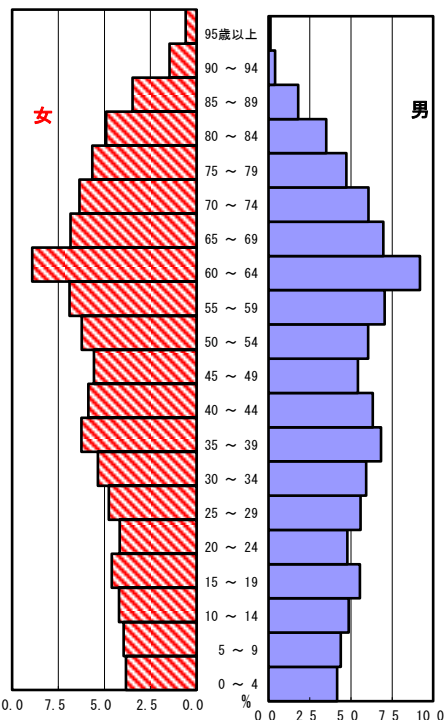


【管内の人口ピラミッド】

平成7年



平成24年



(オ) 管内市の人口構成(概数)

平成24年10月1日現在

市名	総人口	年齢区分別人口			少年人口(18歳未満人口)				
		年少人口 (0～14歳)	生産年齢人 口(15～64 歳)	老年人口 (65歳以上)	0～5歳	6～11歳	12～14歳	15～17歳	計
管内	175,023	22,192	106,013	46,420	8,395	9,019	4,778	5,251	27,443
伊賀市	95,243	11,752	56,234	27,093	4,444	4,712	2,596	2,862	14,614
名張市	79,780	10,440	49,779	19,327	3,951	4,307	2,182	2,389	12,829
三重県	1,838,611	247,704	1,117,043	461,692	93,284	100,501	53,919	54,812	302,516

* 資料: 三重県戦略企画部統計課推計人口

* 年齢不詳者が存在するため、必ずしも合計数と一致しない。

平成24年10月1日現在

	年齢区分別割合			年齢構成指数			
	年少人口 (0～14歳)	生産年齢人 口(15～64 歳)	老年人口 (65歳以上)	年少人口 指数	老年人口 指数	従属人口 指数	老年化指 数
管内	12.7	60.6	26.5	20.9	43.8	64.7	209.2
伊賀市	12.3	59.0	28.4	20.9	48.2	69.1	230.5
名張市	13.1	62.4	24.2	21.0	38.8	59.8	185.1
三重県	13.5	60.8	25.1	22.2	41.3	63.5	186.4

○年齢構成指数の求め方

$$\text{年少人口指数} = \frac{\text{年少人口(0～14歳)}}{\text{生産年齢人口(15～64歳)}} \times 100$$

$$\text{老年人口指数} = \frac{\text{老年人口(65歳以上)}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

$$\text{従属人口指数} = \frac{\text{年少人口} + \text{老年人口}}{\text{生産年齢人口}} \times 100$$

$$\text{老年化指数} = \frac{\text{老年人口}}{\text{年少人口}} \times 100$$

○特徴

管内人口の年齢構成は高齢化が進んでおり、老年人口割合は26.5%となっている。伊賀市では28.4%と三重県の値25.1%を上回っているが、名張市は24.2%と下回っている。

管内の年少人口指数については20.9と三重県の値22.2を下回っているが、老年人口指数43.8、老年化指数209.2と、いずれも三重県の値(老年人口指数43.1、老年化指数186.4)を上回っている。

(カ) 社会福祉施設の状況

平成25年4月1日現在(単位:箇所)

区 分		伊賀市	名張市	計
児童福祉施設 (事業所)	助産施設	1	0	1
	児童養護施設	0	1	1
	知的障害児施設	0	1	1
	障害児通所支援	0	3	3
	短期入所事業所	0	1	1
	児童館	3	3	6
	保育所	36	15	51
老人福祉施設 (事業所)	養護老人ホーム	3	1	4
	特別養護老人ホーム	10	7	17
	老人短期入所施設	10	6	16
	老人福祉センター	1	2	3
	ケアハウス	1	3	4
	デイサービスセンター	42	26	68
障害福祉施設 (事業所)	点字図書館	1	0	1
	盲人ホーム	1	0	1
	生活介護事業所	8	11	19
	短期入所事業所	3	6	9
	就労移行支援事業所	3	1	4
	就労継続支援A型事業所	4	0	4
	就労継続支援B型事業所	17	8	25
	自立(生活)訓練事業所	1	0	1
	共同生活援助事業所	2	2	4
	共同生活介護事業所	5	5	10
	施設入所支援事業所	1	3	4
	福祉型障害児入所施設	0	1	1
	一般相談支援事業所	1	1	2
	特定相談支援事業所	4	2	6
	障害児相談支援事業所	1	2	3

(4)人口動態統計

ア 人口動態総覧

平成23年の人口動態(確定数)の概況は次のとおりである。

表1 人口動態総覧 (実数、率) 各市別

平成23年1月1日~12月

	各市 (県・全 国)	人口	出生			低体重児(再掲)*1			死亡			乳児死亡(再掲)*2		
			総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女	総数	男	女
実 数	全国	126,180,000	1,050,806	538,271	512,535	100,378	45,633	#####	1,253,066	#####	596,526	2,463	1,269	1,194
	三重県	1,848,107	15,080	7,742	7,338	1,353	614	739	19,271	10,038	9,233	37	15	22
	管内	176,487	1,341	698	643	104	46	58	1,878	1,016	862	2	0	2
	伊賀市	96,316	714	374	340	51	21	30	1,173	630	543	2	0	2
	名張市	80,171	627	324	303	53	25	28	705	386	319	0	0	0
率	全国		8.3	8.8	7.9	95.5	84.8	106.8	9.9	10.7	9.2	2.3	2.4	2.3
	三重県		8.2	8.6	7.7	89.7	79.3	100.7	10.4	11.2	9.7	2.5	1.9	3.0
	管内		7.6	8.2	7.0	77.6	65.9	90.2	10.6	11.9	9.4	1.5	0.0	3.1
	伊賀市		7.4	8.0	6.9	71.4	56.1	88.2	12.2	13.5	10.9	2.8	0.0	5.9
	名張市		7.8	8.4	7.3	84.5	77.2	92.4	8.8	10.0	7.7	0.0	0.0	0.0
	率の算出方法		人口千対	男子人 口千対	女子人 口千対	出生千 対	男子 出生 千対	女子 出生 千対		人口千対	男子人 口千対	女子人 口千対	出生 千対	男子 出生 千対

* 資料: 三重県健康福祉部健康福祉総務課、人口は三重県: 三重県戦略企画部統計課(平成23年10月1日現在推計人口)、全国: 総務省統計局(平成23年10月1日現在推計人口)

*1低体重児は出生体重2,500g未満 *2乳児死亡は生後1年未満の死亡。

平成23年1月1日～12月31日

	各市(県・全国)	新生児死亡(再掲)	死産			周産期死亡			婚姻	離婚	自然増加	合計特殊出生率
			総数	自然	人工	総数	妊娠満22週以後の死産	早期新生児死亡				
実数	全国	1,147	25,751	11,940	13,811	4,315	3,941	824	661,895	235,719	△ 202,260	
	三重県	16	333	167	166	67	57	10	8,947	3,264	△4,191	
	管内	2	32	22	10	6	4	2	836	284	△537	
	伊賀市	2	17	13	4	6	4	2	446	160	△459	
	名張市	-	15	9	6	-	-	-	390	124	△78	
率	全国	1.1	23.9	11.1	12.8	4.1	3.3	0.8	5.2	1.9	△1.6	1.39
	三重県	1.1	21.6	10.8	10.8	4.4	3.8	0.7	4.9	1.8	△ 2.2	1.47
	管内	1.5	23.3	16.0	7.3	4.5	3.0	1.5	4.7	1.6	△3.0	1.41
	伊賀市	2.8	23.3	17.8	5.5	8.4	5.6	2.8	4.6	1.7	△4.8	1.43
	名張市	-	23.4	14.0	9.3	-	-	-	4.9	1.5	△1.0	1.38
	率の算出方法	出生千対	(出産)千対			出生千対			人口千対			

*資料:三重県健康福祉部健康福祉総務課、厚生労働省大臣官房統計情報部

- ・△は減を示す。
- ・新生児死亡は生後4週未満の死亡。
- ・早期新生児死亡は生後1週未満の死亡。
- ・死産は妊娠12週以後の死産の出産。
- ・自然増加は出生数－死亡数。

$$\text{合計特殊出生率} = \sum_{\text{年令15}}^{49} \frac{\text{母の年齢別出生数}}{\text{年齢別女子人口}}$$

- (ア) 出生
管内の出生数は前年より18人減少し、出生率は7.6であった。市別にみると、伊賀市・名張市共、県の値8.2を下回っている。
- (イ) 死亡
管内の死亡数は1,878人で前年より67人増加し、死亡率は10.6で前年より0.4ポイント上回っている。市別にみると、名張市は県の値を下回っているが、伊賀市は県の値を1.8ポイント上回っている。
- (ウ) 乳児死亡
乳児の生存は母体の健康状態や養育条件等の影響を強く受けることから、地域の衛生状態、生活水準を反映する指標として重視されている。管内の乳児死亡数は前年より3名減の2名であり、新生児死亡数は前年より2名減の2名であった。
- (エ) 死産
管内の死産数は前年より1名増の32名であった。
人工死産率は7.3で三重県の値を3.5ポイント下回っている。自然死産率は16.0で県の値より5.2ポイント上回っている。
- (オ) 周産期死亡
母体の健康状態に強く影響される指標である。周産期死亡数は前年より2名増加し、周産期死亡率は4.5で昨年の値を1.6ポイント上回っている。
- (カ) 婚姻と離婚
婚姻件数は836件で前年より21件増加している。婚姻率は4.7で県の値を0.2ポイント下回っている。
離婚件数は284件で前年より29件減少した。離婚率は1.6で県の値より0.2ポイント下回っている。
- (キ) 自然増加
管内の自然増加率は-3.0で県の値-2.3を0.7ポイント下回っている。
- (ク) 合計特殊出生率
管内の合計特殊出生率は1.41で昨年より0.03ポイント上回っている。伊賀市は1.43で昨年の0.06ポイント上回り、名張市は1.38で昨年の0.02ポイント下回っている。

イ 死亡の動向

死因別の死亡状況を次に示した。

表2 各市別主要死因別死亡数・死亡率(人口10万人対)

平成23年1月1日～12月31日

		総数	結核	悪性新生物	糖尿病	高血圧性疾患	心疾患	脳血管疾患	大動脈瘤	肺炎	慢性閉塞性肺疾患	喘息	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺
三重県	死亡率	1,042.7	1.6	282.3	13.3	6.2	153.7	106.4	14.3	101.0	15.5	1.7	10.8	20.8	64.7	44.3	19.4
	死亡者数	19,271	30	5,218	246	114	2,841	1,966	264	1,867	287	32	200	384	1,196	818	359
管内	死亡率	1,064.1	1.7	325.2	12.5	3.4	150.7	88.4	14.2	97.5	20.4	2.3	10.2	23.8	90.1	41.9	18.1
	死亡者数	1,878	3	574	22	6	266	156	25	172	36	4	18	42	159	74	32
伊賀市	死亡率	1,217.9	1.0	341.6	13.5	5.2	193.1	95.5	16.6	117.3	21.8	3.1	13.5	34.3	93.4	51.9	19.7
	死亡者数	1,173	1	329	13	5	186	92	16	113	21	3	13	33	90	50	19
名張市	死亡率	879.4	2.5	305.6	11.2	1.2	99.8	79.8	11.2	73.6	18.7	1.2	6.2	11.2	86.1	29.9	16.2
	死亡者数	705	2	245	9	1	80	64	9	59	15	1	5	9	69	24	13

*資料:三重県健康福祉部健康福祉総務課

6

表3 各市別主要死因別年齢調整死亡率(人口10万人対)

平成23年1月1日～12月31日

	総数	結核	悪性新生物	糖尿病	高血圧性疾患	心疾患	脳血管疾患	大動脈瘤	肺炎	慢性閉塞性肺疾患	喘息	肝疾患	腎不全	老衰	不慮の事故	自殺
三重県	393.28	0.48	123.75	5.01	1.77	53.29	35.51	5.12	29.11	4.83	0.59	5.22	6.48	13.77	20.45	17.30
管内	377.15	0.54	136.39	4.11	0.71	50.31	29.22	5.18	25.43	6.06	1.17	4.71	7.69	18.91	17.96	14.59
伊賀市	389.34	0.24	132.21	3.70	0.94	57.98	27.05	5.63	25.61	6.60	1.70	5.68	10.99	16.58	17.89	14.60
名張市	364.13	0.87	143.23	4.45	0.29	39.47	32.50	4.67	24.99	6.09	0.59	3.41	3.48	23.28	16.93	14.58

*資料:三重県健康福祉部健康福祉総務課

$$\text{年齢調整死亡率} = \frac{[\text{観察集団の年齢}X\text{歳(年齢階級)の死亡率} \times \text{基準人口集団のその年齢}X\text{歳(年齢階級)の人口}] \text{の各年齢(年齢階級)についての総和}}{\text{基準人口集団の総数}} \times 100$$

基準人口:昭和60年モデル人口の使用

表4 市別・性別・悪性新生物部位別死亡者数

平成23年1月1日～12月31日(単位:人)

各市名	性別	総数	食道	胃	結腸	直腸S 状結腸 移行部 及び直腸	肝及 び肝内 胆管	胆のう 及び その 他の 胆道	膵	気管、 気管支 及び肺	乳房	子宮	白血病	その他
三重県	計	5,218	134	749	444	205	422	271	445	1,120	156	85	131	1,056
	男	3,206	116	474	232	122	276	139	236	860	-	-	85	666
	女	2,012	18	275	212	83	146	132	209	260	156	85	46	390
管内	計	574	18	87	43	22	67	25	45	120	16	10	12	109
	男	362	15	60	26	10	48	13	22	91	-	-	8	69
	女	212	3	27	17	12	19	12	23	29	16	10	4	40
伊賀市	計	329	9	43	23	15	38	19	22	82	8	6	7	57
	男	211	8	31	15	6	27	9	9	65	-	-	5	36
	女	118	1	12	8	9	11	10	13	17	8	6	2	21
名張市	計	245	9	44	20	7	29	6	23	38	8	4	5	52
	男	151	7	29	11	4	21	4	13	26	-	-	3	33
	女	94	2	15	9	3	8	2	10	12	8	4	2	19

*資料:三重県健康福祉部健康福祉総務課

○ 特徴

管内の死因順位では、第一位悪性新生物574人(総数に占める割合30.6%)、第二位心疾患266人(同様に14.2%)、第三位肺炎172人(同様に9.2%)である。これら3大死因の総数に占める割合は53.9%となっている。

年齢構成を補正した年齢調整死亡率は、管内377.15であり、主な死因別では結核、悪性新生物、大動脈瘤、慢性閉塞性肺疾患、喘息、腎不全、老衰がそれぞれ県の値を上回っている。

死因のうち、悪性新生物部位別死亡状況を表4に示した。

「胃」「肝及び肝内胆管」「気管・気管支及び肺」で47.7%を占めている。